

於大のみち基本計画案 【門前広場】

■施設計画方針

(1) 地域の里山景観を開放的に体感する広場

周辺に広がる里山景観を望む眺望場として、開放性のある広場空間を確保する。
四方からのアプローチを誘引する舗装デザインとともに、広場内へ誘引しダイナミックな里山景観の眺望を可能にする。

(2) 自然景観の連続性を生む舗装空間

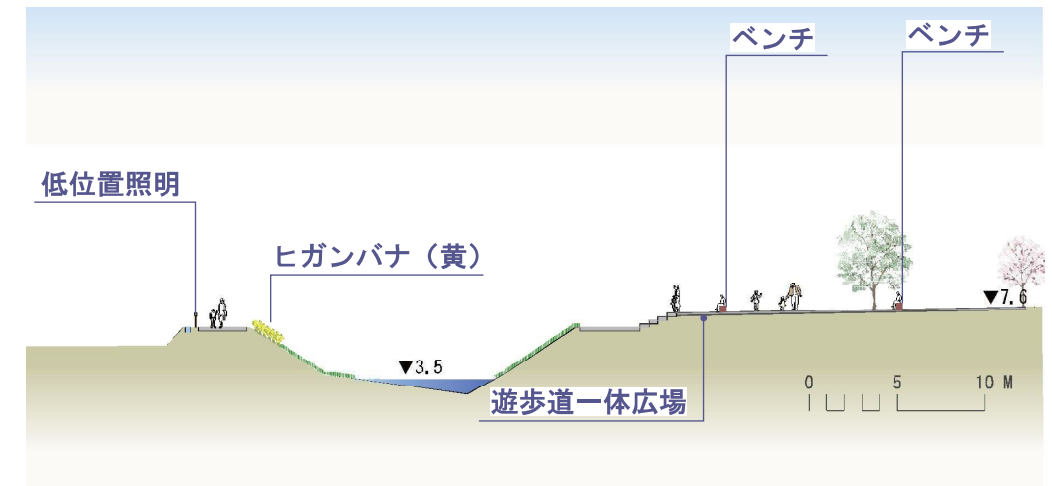
東側へ続く於大のみちの桜並木に続くよう、広場と遊歩道の一体感を創出する仕掛けとして、桜をイメージした色彩の小舗石を流れるように配置し、舗装ライン上にアクセントとして施すことで、桜並木の連続性を視覚的に表現する。

遊歩道との間に高低差のある広場内へのアプローチ動線にバリアフリーに配慮した設えとすることで多世代の利用を促進する。

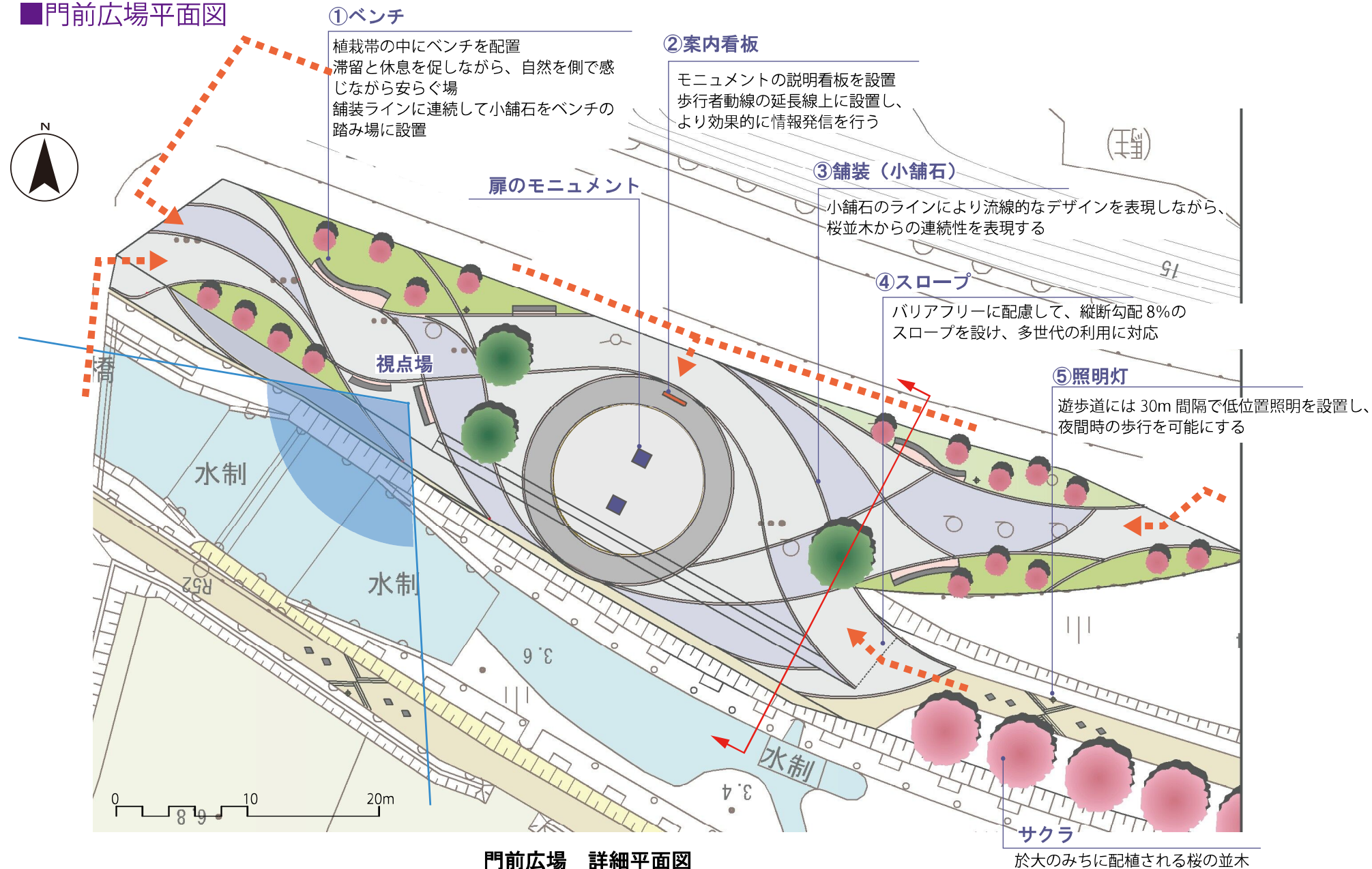
(3) 安らぎと憩いの提供

広場内に点在する植栽帯の中にベンチを配置することで、より自然に近い環境での休息を可能にする。
遠景として望む自然の広がりに加え、利用者のすぐ近くで感じられる植物の香りや緑陰が、視覚・嗅覚を通して連続的な自然の安らぎを提供する空間を創出する

■門前広場断面図



■門前広場平面図

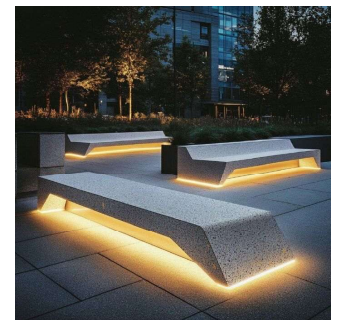


■施設イメージ

①ベンチ



①ベンチ夜間利用



②案内看板



③舗装 (小舗石)



④スロープ



⑤照明灯

